

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	文化を生きる (Introduction to Anthropology)	新座(Niiza)	
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	多文化共生社会に生きる、一方で人類の普遍性とは？		
担当者名 (Instructor)	宮下 克也(MIYASHITA KATSUYA)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2100	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

#### 授業の目標(Course Objectives)

本講義では、グローバル化が進む 21 世紀社会のなかで、他者と共生していくために必要な下記の視点を身につけることを目標とする。

1. 自文化中心主義的態度の見直しの視点
2. すべての文化には独自の意味体系があることを認めた上で、異文化を理解しようとする文化相対主義的視点
3. 文化相対主義を踏まえた上で、自分たちの伝統的な文化(身体化された知識や伝統的な技術を含む)を尊重する視点

In this course, the aim is for students to acquire the following perspectives necessary to coexist with others in 21st century society where globalization is advancing.

1. Revised perspective of the own-culture-centered attitude
2. A cultural relativistic perspective that seeks to understand different cultures, recognizing that every culture has its own semantic system
3. A perspective that respects one's own traditional culture (including embodied knowledge and traditional techniques) based on cultural relativism

#### 授業の内容(Course Contents)

私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。

We naturally acquire the cultural values of the society we have grown up with and grasp different cultures through it. In this lecture, we will aim to start from becoming aware of such own-culture-centered thinking hidden in people, look at diverse cultures, and finally make relative and re-evaluate the fact that "common sense = normal behavior" in our own culture. In modern society where globalization is advancing and the need for "understanding different cultures" has been advocated, we would like students to learn cultural anthropology, which is the study of "knowing different cultures and making one's own culture relative."

#### 授業計画(Course Schedule)

1. 概説:講義全体のねらいと流れの概説
2. 文化と文化相対主義 :文化人類学の諸学説と基本理念を学ぶ。
3. 共同性と逸脱:同じ文化の属する者たちのコミュニケーションと異文化コミュニケーションの違いを「お笑い／コント」から考える。
4. 身体に刻まれる文化(暗黙知):文化の中で身につけた言語化し得ない身体に刻まれた知識について考える。ダンス、職人社会の知識伝承。
5. 家族・親族:世界の多様な家族形態を見聞した上で、現代日本の「家族」を再考する。
6. ジェンダー:「僕たち／私たち」は生まれながらにして「男／女」であるのか？それとも徐々に「男／女」になるのだろうか？
7. 通過儀礼:人の一生において「子供」と「大人」の境界はどこなのか？大学生は「子供」なのか、それとも「大人」なのか？通過儀礼論を通して考える。
8. ケガレの構造:秩序・境界・認識をキーワードにして、差別や排除を考察する。
9. 互酬性:贈る／もらう行為の意味は？贈与と交換から人間関係や社会の仕組みを考える。
10. 宗教と文化の混淆:人間生活と宗教との関係を考える。また、複数の宗教が混ざり合う事例を通して、ハイブリッドな文化を考える。
11. 死を飼いならす:なぜ死が怖いのか？なぜ人間は、あの世や天国を想像／創造するのか？
12. 異民族の共存:多様なエスニック・グループが存在する社会を事例に多文化共生を考える。
13. 病と文化:価値観が多様な多文化共生時代の医療のあり方について考える。
14. 文化の多様性と普遍性:まとめにかえて。

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習 (Study Required Outside of Class)

シラバスをしっかりと読み、世界史と世界地理の高校レベルの基本事項を確認しておくこと。なお、詳細な予習事項は講義の際に指示する。

#### 成績評価方法・基準 (Evaluation)

筆記試験(Written Exam)(70%) / リアクションペーパー(30%)

出席率三分の二以下の者は一切評価しない。また、30分以上の遅刻者は入室禁止。講義形式の授業ではあるが、能動的態度で講義に臨んでもらうために、指名して意見を言ってもらうこともあるのでご了解いただきたい。

#### テキスト(Textbooks)

教科書は用いず、レジュメを配布する。

#### 参考文献 (Readings)

1. 波平恵美子編、2011、『文化人類学【カレッジ版】』、医学書院  
参考文献は毎回の講義時に紹介する。

#### その他(HP等) (Others(e.g.HP))

#### 注意事項 (Notice)